

令和2年度の教育活動等に対する学校評価書

令和3年4月1日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 神宮寺 広美

同学校関係者評価委員会 委員長 飯田 裕子

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○たくましさのある子
「丁寧な生活を心掛け 気持ちよく過ごそう」
- 自己評価に対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ子	園庭や園の自然環境に進んでふれさせる	B	○今年は園外保育等にも行けなかったが、家庭にお願いして、松ぼっくりを拾ってきてもらったことで、自然にふれる機会ができた。 ○チューリップやトマトに水やりをしたり、イチオウの色の変化に気付いたり、霜にふれたりすることによって、春夏秋冬季節の移り変わりを感じ、楽しんでいる子が多かった。 ○例年と同じ環境のため、目新しい自然物には出あわせられなかったが、図鑑をゆっくり見る時間を設けて、繋げたりした。 ○園で育てている野菜や花に、興味をもつことができた。特に花には水やりを行い、大きくなることを楽しみにしていた。	B	園外保育がなかった。園でもらった図鑑を見ながら、自然にふれ合う機会を自らもつようになった。園での野菜栽培で、野菜を食べられるようになった。
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気付かせる	A	○夏はスイカを食べたり、秋は紅葉をテーマにした壁面製作をしたりすることによって、季節の食べ物を知ったり、季節による葉の色を感じたりしていた。 ○実際に見られない現象や自然現象は、ワンダー絵本で補うことができた。 ○自然を生かした製作をすることで、季節を感じることに繋がった。 ○壁面製作や歌は、季節感に合ったものを選び、関心をもてるようにした。 ○ヒヤシンスは毎年楽しく観察ができていていると思う。色予想をしたことで、咲くまで毎日チェックしている子どもも多かった。	A	実際に園で焼き芋を食べたりチューリップを育てたりすることで、季節を感じるようになったようである。
	子どもが見つけた自然の様子を保育に生かそうとする	C	○園庭で見つけた自然物を図鑑で調べ、製作を行う際の導入として使ったり、観察したりすることによって、より理解を深めることができていた。 ○チューリップの球根を植えて、水やりをすることで、「大きくなあれ」と、芽が出てきたことに、喜んでいる姿が見られた。 ▲園内のみだと限界があり、そもそも見つけること自体が難しいと感じる。 ▲カリキュラムが決まっている分、子どもたちの気付きを100%活かすことは難しい。	C	コロナ禍で、園内だけの活動でやれることが限られていたと思うが、園内で自然の物を取り入れながら、保育に生かしていた。
	自然を生かしたあそびを紹介する	B	○松ぼっくりツリーやリース作りでは、普段あまりない体験だったため、楽しく取り組むことができていた。 ○どんぐりを使っての製作・飾りに、子どもたちの工夫が見られた。 ○松ぼっくりやどんぐりなど、その季節のものを製作の時に使用して、五感で感じたり、ふれたりすることができたと思う。 ▲散歩に行けなかったため、十分にできなかった。	A	松ぼっくりのツリーなど、自然の物を使っての製作物もあったことは、よかった。
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	A	○運動会、生活発表会ともによいところをほめたり、よくなったことを伝えたりすることで、一人一人が成長できた。 ○体操や踊りなど、曲に合わせて体を動かす楽しさを保育者の真似をして喜んで踊ることができた。 ○人前に立つことが苦手な子が、大きく振り付けを踊って歌っている姿を見せ、たくさんの観客を感動させた。 ○初めてのことで興味があり、やる気もとてもあったので、ほめることを重点に置き、伸び伸びできるようになった。	A	発表会等で、自分がやりたい役や、やりたいことを選択させてくれた。
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育を心がける	B	○製作では、手本を見せた後、子どもから様々なアイデアが出た。可能な限り、子どもの意見を尊重し製作を行うことにより、周りの子どもも様々なアイデアを思い付くことができた。 ○クラス内で、自分の発想、イメージを伝えてくれる姿が多く見られた。子どもの発想は可能な範囲内、試してみた。 ○子どもたちへの問いかけを多くして、気持ちを共有したり、意見を取り入れたりした。 ▲子ども自身が、おもしろいと楽しめる工夫や環境作りを見直したい。	A	好きな遊びの日に、子どもたちのリクエストを聞いてやってくれたりしたので、子どもたちは喜んで園に行ってきた。
	言葉の発達や言葉への関心を高めたりするような保育や環境作りをする	A	○一人一人の言葉の発達段階も考慮しながら、1対1の会話の数を多くするよう努力した。 ○歌を歌ったり、絵本を読んだりする機会をできる限り多くしてきた。数字に興味をもつ子どもも多く、時計を見て、お始まるの時間を判断できる子どもも増えた。 ○初めて聞く言葉、覚えてほしい言葉等は、一緒に声を出して言ったので、興味をもつことができたと思う。	A	園児の人数が多くないので、園児一人一人と先生の会話の機会が多くてよい。子どもたちが書いた手紙に、先生方がお手紙をお返しで書いてくれて、文字

			○「早くして」ではなく、「もう少しがんばろう」「もう少し急ごう」と、相手を否定しないやさしい言い回しをしたり、子どもたちにもそう伝えたりした。あえて難しい言葉を使い、興味をひくようにしたこともあった。		の練習が楽しくできる。
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさをたくさん味わわせる	B	○製作では、描く・切る・貼る以外の折る・結ぶ・ちぎる等、様々な工程を取り入れた。 ○壁面製作の中で、家庭ではあまり出来ない絵の具を使用し、発表会では、手形、デカルコマニー野菜スタンプ等で遊んだ。その時、子どもたちは生き生きとしていて、集中力をもって活動に参加した。 ○廃材遊びでは、普段使えない綿のフワフワ感を楽しんだり、キラキラテープの輝きにワクワクしたりしながら、とても楽しそうに取り組んでいた。回数をもっと増やしてあげればよかった。 ▲“五感を使う”というのは、難しい部分もあった。	A	廃材遊びでは、子どもたちが自分で考えながら、楽しく作っているように思う。
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ機会や遊びを大切にす	B	○発表会シーズンだけではなく、普段から、歌ったり、おどったりする機会を多くした。初めは恥ずかしがっていた子ども、人前で堂々とできる子が増えたように感じる。 ○運動会、発表会では音楽に合わせて伸び伸びと表現する姿が見られた。動きの質の上達に感動した。 ○時々、運動会・発表会で踊った曲を流すと、楽しく歌ったり踊ったりする姿が見られてよかった。 ▲カードの合格が目標になり、がんばる姿が見られたが、楽しむ、遊びの面に力を入れ、楽しいからその子どものやる気に繋げていくとよかったと思う。	B	毎朝の体操の時間は、とてもよい。ただ、運動カードの取り組みで、周りが出来ていたりすると、「できない」と焦ってしまい、楽しんでできないような気もした。
思いやりのある子	動物グループの活動を積極的に進める	B	○今年度は、昨年度ほどの活動はできなかったが、動物グループでは常に楽しい雰囲気のもと活動できた。 ○コロナで、他学年との交流が難しい中、絵本の日やお弁当の日等の少ない時間を大切に楽しんで行うことができた。年長児はもちろん年中児も、年下に対する思いやりが芽生えた。 ○異年齢での活動として、お兄さん、お姉さんとペアになって、自然に相手を思う気持ちが芽生えたと思う。 ▲コロナの影響で、活動が少なかったのは仕方のないことだが、もっと給食や朝などの関わりがあるとよいと思う。	A	異年齢での交流は、普段の私生活でそういう機会がない子にとっては、とてもよいと思う。
	自由遊びの時間を確保し子ども同士がふれ合えるようにする	B	○朝や昼食後、活動の合間を使っての自由遊びでは、クラスの仲を深めることができた。新しい交友関係を築くことができ、気の合う友達と楽しく遊ぶ姿が見られた。 ○お互いにおもちゃなどゆずり合って使うなど、相手の気持ちを伝えて遊べるように見守った。 ○コロナ対策で、集団遊びをセーブしてしまっていたが、そのおかげで例年より自由な時間が増え、子ども同士のやりとりも多く見られた。 ▲昼は給食の時間が長くなってしまふが多かったので、間延びしないように気を付けたい。	B	子ども同士では、遊びの時間は確保できると思うが、個々の時間と考えると、バスの時間や給食の食べ終わる時間の関係で、差が少し出てしまったように思う。
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に取り入れる	C	○今年度はコロナ感染予防のため、意図的には取り入れなかったが、レストランごっこや動物グループ等で関わることができた。 ○コロナにより機会が多くなかったが、製作やレストランごっこ等で、他学年との交流もできていた。年中児は自分がお世話をする側になり、喜びを感じていた。 ▲コロナ対策のため、逆に少なくなるようにしていた。 ▲今年は関わる機会が少なかったため、あまり他学年に興味をもていないかもしれない。	B	保護者から見ると、レストランごっこや動物グループでの活動を充実させてくれているように思える。
	子どもが絵本好きになるように時間を確保したり環境を整えたりする	B	○時間がある時は、なるべく絵本を読むようにした。日本昔ばなしシリーズで縛った時期は、次回作を楽しみにしている様子が見られた。 ○動物グループでの絵本の日で、それぞれの季節に合った本や、子どもにも人気の本などの読み聞かせをしたことで、絵本への興味がわく工夫をした。 ○本棚を整頓し、壊れた絵本をすぐ直した。給食後の絵本の時間では、子ども自身が本棚の汚さに気付き、協力して絵本を全部きれいに揃え直すこともあった。 ○あいた時間で絵本の読み聞かせを行うようにした。自ら絵本を読む子どもも増えた ▲もっと絵本を読む時間を増やしていきたい。そのために、保育者として、時間を意識し行動していかなければと感じた。	B	本を読む機会を先生方がとってくださいっていると思う。
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	○困っている子がいると、その存在を遠回しに伝え、助け合えるよう促した。周りの友達の手助けになるようなことを自然にしてくれている。 ○満3歳の子が入ったことが、よい影響となり、年少組の中でも、お兄さん、お姉さんとしてお世話をする姿が見られた。 ○製作の時は仕上がった子が教えたり、手伝ったりする姿が自然と見られた。 ○意識的に「グループ」や「クラス」という集団で助け合えるよう促した。	A	年長さんが年少さんのお世話をする機会を作ってもらえるように思う。
たくましさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	A	○様々な運動遊びを取り入れて、体を動かすことが楽しいと思えるような取り組みを心がけた。 ○タイヤや平均台でバランスをとりながら歩くなど、体を使って遊べるよう心がけた。 ○朝の体操の中で、どこを伸ばすことを意識したポーズなのかを説明し、理解を深められた。 ○自由遊びでは、できるだけ走ったり、鉄棒、のぼり棒をしたりと、楽しみながら運動面の力が伸ばせるよう、心がけている。	A	子ども同士の遊びの時間がしっかりあるだけでなく、それ以外の運動を取り入れた時間も確保してくれていると思う。

カードを利用するなどして目標をもちやすくしたり自ら運動しようとする意欲を高めたりする	B	<p>○運動の得意な子には、次の目標となるように、ステップアップしたカードを作成して、意欲をもち続けていけるよう工夫した。</p> <p>○年中・長の行っているカードは、自分の現状や課題が一目でわかるし、達成感も味わえるため、よいと思う。</p> <p>○年少組はがんばりカードがまだ実施されていないが、年長・中児ががんばっている姿を見て興味（特に鉄棒）をもち、練習する子どもが何人か見られた。</p> <p>▲目標を明確にするには必要だが、カードの内容が難しすぎて、逆にやる気を損失させてしまったような気がする。</p>	B	達成感が感じられることはとてもよいと思う。カードを利用し、目標がしっかり見えることで、がんばろうとする気持ちが引き出された気がする。
いろいろな運動遊びを紹介する	B	<p>○転がしドッジボール、鉄棒、手わりでのぶら下がりなど、補助しながら、がんばる気持ちを教えた。ルールのあるものには、説明をしてから行った。</p> <p>○転がしドッジボール、しっぽ取りゲーム等、自然に体を動かし楽しめることを行った。</p> <p>○クラスで、時間に余裕がある時は、室内でできる“ちょっとした遊び”をいくつか楽しむことができた。</p> <p>▲年中児はルールのある遊びを理解できるため、もう少し難しいルールがあったり、チーム対抗で勝敗をつけたりしてもよかったと感じる。</p>	A	しっぽ取りゲームや転がしドッジボールなど、いろいろな遊びを教えてもらっていると思う。
食に関心をもたせ、マナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	<p>○給食の時には、おかずの内容にふれたり、はしの持ち方、時間に食べ終わることに配慮したりした。</p> <p>○個別に子どもとやりとりをしながら食べる量を決め、目標が達成できた時にはほめてきた。</p> <p>○ご飯、おかずを交互に食べる大切さを伝え、バランスよく食べることを意識付けた。</p> <p>▲食事時の飛沫が気になり、そのような部分ばかりに対応したため、食に関心をもたせるようなことはできなかった。</p>	A	苦手なものをがんばって食べるように指導してもらっていて、よいと思う。おはしも、補助なしのおはしを使わせているのも、よい。
友達が少ない子や、孤立しがちな子の支援を心がける	B	<p>○保育者が声を掛け一緒に遊んだり、何か出来た時は、自信をもたせたりしてきた。また、保育者が仲立ちとなり、一緒に遊ぶことを心掛けた。</p> <p>○引っ込み思案の子や自分から声を掛けられない子には、保育者が間に入ったり、積極的な子に頼んだりして、輪をつないだ。</p> <p>○クラス全体で仲がよい。一人の子がいたら、声を掛けて、誘って仲間に入れる姿が見られた。</p> <p>▲一人遊びを好む子に声を掛け、集団遊びに取り込んだが、すぐに離脱してしまうことが多かった。</p>	B	先生方が、普段から子どもたちの性格や関係性をしっかり見てくれていると思う。それによって子どもたちは、楽しく過ごすことができていると思う。
継続して運動に取り組むような工夫をする	B	<p>○できるようになったことを一緒に喜んだ後、次の目標を伝え、その後も見守るようにしてきた。</p> <p>○運動カードやメダル、年下の子どもから慕われることで、継続できていた。</p> <p>○集団遊びやルールのある遊びから、体を動かすことを楽しめるようにした。</p> <p>○向上心をもてるよう、こまめに声を掛け、こまめにほめた。具体的な目標を伝えたり、近くで見守ったりした。</p> <p>○朝の体操終了後、鉄棒、のぼり棒に取り組むことを心がけた。</p>	B	毎日、なわとびや鉄棒などにふれる時間をとってくれていると思う。
令和3年度に向けての改善策			上記以外の意見(抜粋)	
<p>☆学校評価における保護者の意見はもちろんのこと、日頃の保護者の意見も尊重し、園運営に随時役立てていく方針は、今後も継続していく。</p> <p>☆コロナ禍のため、通常の活動が制限されたり、自然にふれることが少なかったりしたが、子どもたちの安全を考えれば仕方がない。限られた範囲内であっても、はたらきかけの工夫をして、充実させていきたい。</p> <p>☆やさしい心をもっている子、落ち着いた生活ができる子が多いことが、本園の特長である。このことを継続していくために、担任だけでなく全職員の見取り・指導のレベルアップを図っていく。</p> <p>☆園内の環境整備について、引き続き気を配っていく。緊急を要することにはすぐに対応し、そうではないことにも可能な限りの確に対応する。職員による園内の清掃等は効果があるため、努力を継続する。</p> <p>☆満3歳児の受け入れに関しては、満3歳児のみの学級があることが理想である。しかし、本園の施設状況や職員構成を考えると、現状のように年少学級で受け入れて保育をしていくしかない。受け入れ人数については、学級の実態、年少担任の意向等を考慮して、柔軟に対応していく。</p> <p>☆コロナ禍において、本年度の重点目標にある「丁寧な生活」を心がけてきたことは、タイムリーであった。コロナ禍は続きそうであり、令和3年度もその心がまえは継続していきたい。</p>			<p>・動物グループの活動は、保護者側の評価が高い。今後も、充実させていってほしい。</p> <p>・園周辺は商業施設ができて、自然が少なくなったが、園の中で花を植えたり、野菜を育てたりして、自然とふれ合える環境づくりは、してもらっている。</p> <p>・コロナ禍で、父母参観や行事が中止になったことは残念だったが、その分、園側がしっかり感染対策に取り組んでいると感じた。安心して子どもたちを任せられる気持ちになった。</p>	